

小澤洋介、三戸素子、P.ヤング

友の会ニュース



2001年2月20日発行 No.28

そろそろ春も間近になりました。

クライネス・コンツェルトハウス Op.10「ハンガリーの三人」の印象も鮮やかなまま、洋介さん素子さんはフィリップさんと4月のサンクト・フローリアン三重奏団の東京文化会館での演奏会の準備に突入しました。友の会の有志でつくられているアルコイリス基金の「毎年サンクト・フローリアンの演奏を、メジャーのホールで聴きたい。」という願いから始まったこのコンサートが、今年は4月9日(月)東京文化会館で行われます。会員の皆さま、どうぞ宜しく応援をお願いいたします。

今回の友の会ニュースには久しぶりの志賀紳さんと井上良さんの文章が届きました。去る1月12日の《モーツァルト》最終回、そして2月6日「ハンガリーの三人」のもようをおとどけます。

2001年クライネス・コンツェルトハウスを聴いて その1 友の会会員 志賀紳

今年になってのクライネス・コンツェルトハウスの2回のコンサートはとてもスリリングなものでした。

1月12日モーツァルト弦楽四重奏曲最終会(横浜イギリス館)

< 16番 K428 > とくに第2楽章は胸をどきどきさせて聞きました。プログラムには『わりきれない響きが支配し、息苦しいほどだ』とありますが、その通りなのです。『宿命』のようなものが、そばを通りすぎようとしているのを予感し、必死でさがしあてているようなすごい緊迫感です。『モーツァルトは"不安定なものの力を"知っている』と思いました。意味が連続すればするほど全体があいまいに、そして深くなり、言葉にならぬ不安が迫ってくるようなのです。『ロマン派を先取りするような音』とありましたが、私は、モーツァルトは、『シンボリズムまで先取りしていたのだ』と感じさせられたのでした。

< 18番 K464 > はじめは王様に聴かせるような曲をつくっていたのに、第3楽章に入ると、モーツァルトはいつの間にか、それを忘れて、ひとりごとを言い出しているようなのでした。こういう天才的音楽家が自分の『個』に沈潜したとき、すごい音が発見されるしそういう芸術の新局面の現場に立ち合っているような感動がありました。そして弦楽四重奏という形式！それぞれが独自の役割を持ち、とくに、沈痛な主調の部分チェロが響かせ続けているのです。この< 16番 > < 18番 > は、あまり演奏されないとのことですが、それはモーツァルトには『今も先駆的すぎる』ものがあり、それが敬遠されているからではないでしょうか。それに取り組み、毎回私たちに新しい発見と感動を与えてくれるクライネス・コンツェルトハウスには感謝するほかありません。

< 19番・不協和音 > 有名な曲で申し分ありません。私には『うますぎる話には気をつける』と内なる声がひびいてくるような申し分のなさでした。

そして毎回の『アンコール・誰も知らないモーツァルト』は、彼13歳のときの『弦楽四重奏第1番』。それは清らかな少年の魂の音楽でした。この少年はきっと偉大な芸術家になるだろうと思われました。

イギリス館でのクライネス・コンツェルトハウスの室内楽は、いま日本で一番の音楽の楽しみ方ではないでしょうか。改修が済んだら必ず再開してください。

< 次号「ハンガリーの三人」につづく >

ハンガリーの映画と音楽

友の会会員 井上良

クライネス・コンツェルトハウス Op.10「20世紀の音楽現場 ハンガリーの三人」のあとで

ハンガリー映画「一万の太陽」は作家性のつよい作品です。1937年うまれのコーシャ・フェレンツ監督が映画学校の卒業制作として取り組んだ意欲作で、カンヌ映画祭で最優秀監督賞を受賞し、ヨーロッパでの劇的デビューとなりましたが、フランスには個性的な映画作家を受け容れる素地があるのでしょうか。翻って我が国での1980年の公開当時はとまどいの声が多かったのではないかと。美しいけれどもよくわからない、背景情報が不足である、現実の農民の姿ではない等々。つまり、農業国ハンガリーの1930年代からおよそ30年間の出来事を描くその描き方が独特で、美しい映像に描き込まれたひとつひとつの事柄が了解不能のまま謎として記憶に残されてしまうからです。わたくしの場合、東京・京橋のフィルムセンターでハンガリー映画特集のとき上映されてとても強い印象を受けていた作

品です。私のハンガリー理解の起点になってきた映画です。

1990年の作品「カフェ・ブダペスト」は、99年の日本劇場公開のあと昨年11月にDVDで発売されているので見ることができます。東京の岩波ホールで現在上映中のポーランド映画「パン・タデウシュ物語」は、アンジェイ・ワイダ監督の最新作で、彼の映画のほとんど全作品が日本で公開されているのに比べるとハンガリー映画の紹介はずいぶん遅れているのです。最近わたくしはウィーンとその周縁の音楽事情について調べごとを始め、マジヤールの音楽について読み、聴く機会が増えています。このたびの「ハンガリーの三人」の演奏会はまことにありがたかった。

さて、2001年2月6日(火)上野の東京文化会館小ホールは、ヴァイオリンとチェロの二重奏曲で幕開けです。颯爽とステージに現れた三戸さん、小澤さんお二人の呼吸はぴっ

たり合っていて、なじみのないこの曲の3つの楽章24分を気持ちよく聴き通しました。聴きながらじつは、この文章のはじめに書いた「作家性」のような強い個性（ヴァイオリンの大胆な強弱と高低、断片的なフレーズの連なりなどの構成のなかに乾いた洗練がある）をこの曲に感じていたのですが、お二人の演奏振りには練習曲を完璧にこなしている余裕のようなものが伝わってきました。もちろん真剣そのものの演奏は集中力があり、引き込まれて身を乗り出している自分に気がつきソファに背を戻しているような経験を徐々に味わいました。当日の会場で配布された「プログラム」にはこの曲の調性の記載がないのでおそらく無調性の曲なのでしょう。スコアを見てみたいですね。そしてなによりおふたりだけのステージが絵になっていてとてもすてきでした。三戸さんが立って演奏されたのは作曲者コダーイの指示でなくヴァイオリニスト三戸素子の演奏者としてのセンスというものです。忘れがたい映像を胸に刻むことができました。

続く第二曲は、「コントラスツ」と題されたトリオ。クラリネットとヴァイオリンはそれぞれ何回かふたつの楽器を持ち替えての演奏です。プログラムにその説明がありませんが、作曲者バルトークはなぜこんなふうにしたのでしょうか？3楽章15分のあいだジャズトリオのジャムセッションを聴いているような気もしましたが、リズムに体が反応するわけにいかないおかしな曲でした。

前ページより続き

「20世紀の音楽現場 ハンガリーの三人」のあとで
ハンガリーの映画と音楽

ジャズ・クラリネットのベニー・グットマンはこの曲をどんなふう演奏したのか、CDを探してみようと考えています。1940年のカーネギーホールだから録音が残っているかもです。山根さんのクラリネットは、やや長めのものでした。モーツァルトのとは全然ちがう音色の、不思議な一曲。

休憩をはさんでのドホナーニは八長調の六重奏曲で祝祭的な雰囲気でもボリュームたっぷりに鳴り響くといった感じ。こうして室内楽の夕べを振り返ってみますと、演奏者が身近であることや演目に工夫があっただけに楽しめます。録音技術の発明以来、演奏家は録音することをそして聞き手は録音を聴くことを受け容れてきたわけですが、演奏会にのぞむことがなよりの贅沢です。映画音楽やジャズを作曲もしたショスタコーヴィチの曲をレパートリーにもつクライネス・コンツェルトハウスが、そしてビートルズの「ゲットバック」にも挑戦し、4月に委嘱作品を含むピアノトリオの夕べを準備中のサンクト・フローリアン三重奏団が、現代曲に重要性を置いていることに敬意を感じます。「プログラム」には、3人の作曲者の写真とよく整理された情報がまとめられていて楽曲とその背景の理解におおいに役立ちました。1930年代のナチズムの台頭はヨーロッパの試練でしたが、危機は日常のなかに潜んでいるのではないのでしょうか。

今後の主なコンサートとスケジュール

- 2月24,25日 米カリフォルニア・パサデナ市立大学 サンクト・フローリアン演奏会
- 3月1日 米カリフォルニア・サンオビスポ サンクト・フローリアン演奏会
- 3月17日 ミートス弦楽四重奏団 川越カフェ「カナン」演奏会
- 4月7日 骨髓バンクチャリティー サンクトフローリアン演奏会 鎌倉円覚寺
- 4月9日 サンクトフローリアン演奏会 東京文化会館
- 5月17日 クライネス・コンツェルトハウス九州公演 熊本（未定）
- 7月15日 クライネスコンツェルトハウス Op. 11 東京文化会館
- 10月6日 小澤洋介チェロの世界 in 八ヶ岳 バッハ無伴奏チェロの組曲 シリーズ その2
- 10月下旬 クライネス・コンツェルトハウス メキシコ演奏旅行

新規会員を随時募集しております。知人、ご友人の方々に友の会をぜひご紹介下さい。

年会費 一口 1,000円

郵便振替口座

00260-1-13926

加入者名

「友の会 小澤洋介・三戸素子・フィリップ・ヤング」

新規入会ご希望の方はその旨お書添えの上直接年会費をお振込下さい。

コンサートの詳細とお知らせ



2月24,25日サンクト・フローリアン三重奏団

アメリカ公演 カリフォルニア パサデナ市立大学
・マルタン：アイルランド民謡による三重奏曲
出演：サンクト・フローリアン三重奏団 三戸素子/小澤洋介/フィリップ・ヤング

3月1日(木) サンクト・フローリアン三重奏団

アメリカ公演 カリフォルニア サン オビスポ
・モーツァルト：ピアノ三重奏曲 ト長調 KV496
・マルタン：アイルランド民謡による三重奏曲
・シューベルト：ピアノ三重奏曲 第2番
出演：サンクト・フローリアン三重奏団 三戸素子/小澤洋介/フィリップ・ヤング

3月17日(土) ミートス弦楽四重奏団

川越 オーディオ&カフェ「カナン」 19pm開演 ¥4,500
・モーツァルト：ディヴェルティメント 二長調 KV136
・ラヴェル：弦楽四重奏曲
・モーツァルト：弦楽四重奏曲「不協和音」
出演：ミートス弦楽四重奏団 三戸素子/山田耕司/二宮隆行/小澤洋介
定員40名 要予約 お問合せ:0492-34-5515「カナン」

4月8日(土) 第9回 円覚寺ピアノ三重奏の夕べ

~サンクト・フローリアン三重奏団 骨髓バンクキャンペーンコンサート~
演目、出演者は以下の東京文化会館と同じです。
鎌倉 円覚寺 方丈 17:30pm開演 前売券¥3,000
問：神奈川骨髓バンクを考える会 TEL.0463-21-0010

4月9日(月) サンクト・フローリアン三重奏団

東京文化会館 19pm開演 ¥4,000
・モーツァルト：ピアノ三重奏曲 ト長調 KV496
・西澤健一：ピアノ三重奏曲 第2番 (委嘱作品)
・シューベルト：ピアノ三重奏曲 第2番
出演：サンクト・フローリアン三重奏団 三戸素子/小澤洋介/フィリップ・ヤング

友の会ニュースでは、会員の皆さまからのお便り、原稿、素朴な質問等、随時お待ちしております。